

1 現状（令和5年度の取組）

1 健康づくりと疾病予防

■ 壮年期男性（40～64歳）

全死因年齢調整死亡率（出典：健康づくり支援システム）（人）

	H29	H30	R 1	R 2	R 3
須崎管内	333.8	451.2	412.1	420.5	481.2
高知県	394.5	388.7	380.8	350.2	357.0
全国	339.4	334.3	329.0	332.3	324.6

- ・ 壮年期の男性の全死因死亡率は、全国及び県よりも高く、死亡の原因の約6割は生活習慣病が占めている
- ・ その中でも脳血管疾患年齢調整死亡率（40～64歳 男性）は、全国・県平均より高い状況にある

■ 管内事業所の健康づくりの取組状況

（出典：令和2年高幡地域事業所の健康経営実態調査）

- ・ 職員の健診を毎年実施：95.2%
- ・ 必要な人に保健指導を実施：34.3%
- ・ 「健康経営」を知らない：44.8%
- ・ 高知家健康パスポートを知っているが取り組めていない：51.4%

■ 定期健診結果報告における有所見率（出典：須崎労働基準監督署）

	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
須崎署管内	60.0%	60.2%	62.7%	65.6%	65.4%	63.0%	65.1%
高知県	61.5%	62.2%	61.2%	63.1%	63.7%	62.6%	63.1%
全国	54.1%	55.5%	56.6%	58.5%	58.7%	58.3%	58.8%

- ・ 血糖、血中脂質、血圧の有所見率が増加傾向にある

2 疾病の早期発見・早期治療

■ 市町村国保特定健診受診率（出典：法定報告）

	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町	県平均
R 1	40.6%	45.9%	74.8%	63.9%	38.6%	37.7%
R 2	37.3%	40.1%	70.6%	55.3%	34.4%	35.2%
R 3	37.7%	41.3%	75.1%	64.2%	37.0%	35.6%
R 4	40.5%	44.7%	72.7%	62.4%	33.8%	36.6%

■ 市町村国保特定保健指導実施率（出典：法定報告）

	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町	県平均
R 1	39.2%	16.9%	35.6%	41.6%	20.4%	28.4%
R 2	43.6%	18.3%	14.3%	57.1%	36.6%	30.1%
R 3	41.7%	52.6%	16.0%	35.8%	40.9%	33.0%
R 4	36.5%	58.2%	25.9%	53.3%	49.6%	34.6%

- ・ 目標である、特定健診受診率60%、特定保健指導実施率45%には届いていない

■ 管内市町の糖尿病性腎症重症化予防プログラム活用状況

	R 1	R 2	R 3	R 4
プログラムⅠ（未治療ハイリスク者）介入割合	82.4%	77.8%	87.5%	30.8%
プログラムⅠ（治療中断者）介入割合	66.7%	71.4%	55.6%	17.6%
プログラムⅡ介入割合	1.6%	5.9%	14.3%	4.1%

◎ 取組

1 健康づくりと疾病予防

- 生活習慣病予防に向けたポピュレーションアプローチの強化
- （1）健康づくり推進部会と連携した啓発活動の実施
- ・ 健康づくり推進部会の開催（7月と1月）
- ・ よさこいケーブルネット放映（2回）
- （2）事業所での主体的な健康づくり（健康経営）の取組促進
- ・ 健康管理担当者サポート事業の実施（24社を訪問）
- ・ 職場の健康づくり応援研修会（11月 36名）
- ・ 全国安全週間会場にて健康経営の啓発（2会場 73名）
- ・ 出前健康教室の実施（3回 65名）

2 疾病の早期発見・早期治療

- 血管病重症化予防対策の推進
- （1）特定健診受診率・特定保健指導実施率の向上対策
- ・ 中土佐町の医療機関訪問に同行し、受診勧奨を依頼
- （2）糖尿病性腎症重症化予防対策の推進
- ・ 糖尿病アドバイザー派遣事業の実施（3市町）
- ・ 四万十町とK病院において透析予防強化事業を開始
- ・ 透析予防強化プログラムの医療機関への説明（2機関）
- ・ 糖尿病性腎症対策研修会の開催（12月）
- ・ 糖尿病対策検討会の開催（3月予定）

2 令和5年度の取組成果

1 健康づくりと疾病予防

生活習慣病予防に向けたポピュレーションアプローチの強化

- （1）部会において活動を共有することで取組の連携や活用に繋がった
- （2）健康づくり推進部会と連携したケーブルテレビでの啓発活動
- （3）健康管理担当者サポート事業や応援研修会等々の機会を捉え、健診の必要性、健診後の保健指導や受診勧奨の重要性を伝えることが出来た。また、他の事業所の良い取り組みを共有できた

2 疾病の早期発見・早期治療

血管病重症化予防対策の推進

- （1）医療機関からの特定健診受診勧奨の声かけやチラシ配布・掲示の協力が得られた
- （2）透析予防強化プログラムの開始
- （3）糖尿病性腎症重症化予防対策に向けた県の取組について啓発できた

3 取組後の課題

1 健康づくりと疾病予防

生活習慣病予防に向けたポピュレーションアプローチの強化

- （1）健康づくり推進部会との更なる連携に向けて、継続した検討や調整が必要
- （2）働きざかり世代に届くよう職場で取り組める健康づくりプログラムを提供するなど、事業所が主体的に健康づくりに取り組める環境づくりが必要

2 疾病の早期発見・早期治療

血管病重症化予防対策の推進

- （1）市町と連携した、医療機関訪問や医師会との連携が必要
- （2）プログラムを活用するためのスキルアップが必要
- （3）新規透析導入患者数の減少に向けて、透析予防強化プログラムの実施拡大が必要

4 令和6年度の取組

1 健康づくりと疾病予防

生活習慣病予防に向けたポピュレーションアプローチの強化

- （1）健康づくり推進部会と連携した啓発活動の実施
- ① 各種イベントでの啓発活動の実施
- ② よさこいケーブルネットを活用した啓発放映
- （2）事業所での主体的な健康づくり（健康経営）の取組促進
- ① 健康管理担当者サポート事業の継続
- ② 高知家健康パスポートアプリを活用した事業所支援

2 疾病の早期発見・早期治療

血管病重症化予防対策の推進

- （1）特定健診受診率の個別健診やみなし健診の増加へ向けた支援
- （2）糖尿病性腎症重症化予防対策について
- ① 糖尿病対策検討会を通じた関係機関との連携強化
- ② 糖尿病アドバイザー派遣事業の実施（開催方法の見直し）
- ③ 糖尿病性腎症重症化予防プログラムの推進

1 現状 (令和5年度の取組)

2 令和5年度の取組成果

◎ 認知症サポーター養成者数

市 町	受講者数 (人)		合計	対象者
	R5.3月末現在	R6.1月末現在		
須崎市	2,069	118	2,187	一般住民、小・中学校生、老人クラブ等
中土佐町	1,311	0	1,311	養成講座ではなく、対象者を広げた勉強会を開催
梶原町	429	15	444	区の見守り隊候補者等
津野町	547	33	580	民生児童委員、役場、社協の職員
四万十町	3,326	11	3,337	小学校等
合 計	7,682	177	7,859	

- ・R5年3月末時点の受講者数: 全国キャラバン・メイト連絡協議会HP (市町村別) より抜粋
- ・R6年1月末時点の受講者数: 管内5市町地域包括支援センターの報告による
- ・各市町とも受講者自らが認知症を学び少しずつ理解者・応援者を増やす意図をもって養成している

1 総合的な認知症施策の推進

- 梶原町、津野町を重点に認知症疾患医療センター (一陽病院) と連携した「認知症講演会」の継続開催 (会場: 津野町3/3予定)
 - ・テーマ: 当事者や家族、地域の方との「共生」を目指した「気づき・つながり・共に暮らす」
- 認知症サポーターが活躍できる場の創設
 - ・「認知症講演会」に関わる認知症サポーター等が活躍できるよう、地域住民や支援者との交流会を開催 (津野町: 2/14)
- 若年性認知症の当事者として活動する高知家希望大使との交流会の開催
 - ・高知家希望大使の山中しのぶ氏を、梶原町のボランティアによる集いの場「ゆるりの部屋」に招聘し、支援者や高幡ブロック地域包括支援センター認知症部会との交流会・研修会を開催 (12/25)
- 管内認知症疾患医療センターと地域包括支援センターが一体的に連携した取組が推進できるよう協議を開始 (2回)

2 在宅療養体制の充実

- 高知家@ラインの加入施設の拡大
 - ・事務局及び須崎市包括と連携した事業所ヒアリング (25件) ・ワーキング (3回) の実施
- 在宅医療・介護連携の取組
 - ・高幡ブロック地域包括支援センター連絡協議会において「人生会議」をテーマにした研修会の開催 (11/7) 174名の参加 ※「人生会議」についての講義: 高知県立大学 森下安子教授
- 地域包括支援センターの強みや課題等を踏まえた効果的な運営のためのアドバイザー派遣
 - ・地域包括支援センター機能強化推進事業: 須崎市・四万十町 各1回 (10/11)
 - ・地域包括支援センター機能強化推進事業フォローアップ: 梶原町1回 (1/29)
 - ・生活支援体制整備を中心とした課題解決型アドバイザー: 津野町3回 (6/14、9/13、12/6) 須崎市1回 (12/7)

3 取組後の課題

1 総合的な認知症施策の推進

- ◆一般住民への認知症とともに生きる「共生」の視点について管内全域への周知拡大が必要
- ◆早期発見・早期つなぎのための関係機関の連携方法等の協議が必要

2 在宅療養体制の充実

- ◆須崎市以外への高知家@ラインの周知が不十分

1 総合的な認知症施策の推進

- 梶原町・津野町の住民を主体とした「認知症講演会」の開催
 - ・認知症疾患医療センターの周知や地域住民とのつながりを大切にした「共生」への理解促進
- 認知症サポーター等の活躍の場「認知症講演会事前交流会」の開催
 - ・交流会の開催 (14名参加) による地域で支え合う方法や認知症当事者理解の促進
- 認知症の当事者が求める対応や支援者が進める居場所づくりについての理解促進
 - ・高幡ブロック地域包括支援センター「認知症部会」を中心とした居場所づくりの促進
- 管内の認知症に関する現状の把握と関係機関ごとの課題の整理

【課題整理の主な項目】

主な意見	課題の整理	当所が広域的に取り組めること
① 家族、当事者が相談しづらい (相談の遅れ)		認知症サポーターや地域との交流会
② 一般住民は認知症に対してネガティブイメージがある 当事者は外に出たがらない (人に会うのが恥ずかしい)	家族や本人、地域の気づきに関する知識が不十分	管内認知症疾患医療センターと地域包括支援センターと連携した「認知症講演会」の開催
③ 当事者は集いの場に関心がある	関係機関のスキルアップが不十分	高知家希望大使との交流会・研修会
④ 訪問薬剤師が気づいた時に本人を医療に繋げる方法が周知されていない	かかりつけ医との連携が必要 支援者側から在宅療養者への関わり方や入院、治療についてのつなぎ方が難しい	高知家@ラインの推進 認知症疾患医療センターと地域包括支援センターとの更なる連携

2 在宅療養体制の充実

(1) 高知家@ライン加入施設数の拡大

須崎市包括との連携による事業所訪問や活用事例の普及、利用ステージに応じたワーキングの実施等により、連携が進んだ

加入施設等	加入件数 (件)		合計
	R5.3月末現在	新規加入 (R6.1月末現在)	
医療機関	5	3	8
薬局	2	2	4
介護サービス事業所	13	14	27
行政機関	2	0	2
合 計	22	19	41

(2) 医療・介護等の多職種連携による「人生会議」の周知・啓発

- ・警察や消防等の参加による情報共有
- ・多職種連携による「人生会議 (ACP)」のあり方・プロセス・必要性の理解促進

(3) アドバイザー派遣による地域の取組推進

- ・総合事業C型におけるアセスメント・動機づけの取組促進 (須崎市)
- ・住民同士の助け合いや移動支援への対応、支え合いにつなげる考え方等の取組推進 (梶原町・四万十町)
- ・地域の集いをきっかけとした住民主体の助け合いの場の創設 (津野町)

4 令和6年度の取組

1 総合的な認知症施策の推進

- ◆中土佐町・四万十町地域での「認知症講演会」の継続開催
- ◆住民・支援者との「共生」を視点とした「認知症」に関する交流会の開催
- ◆管内認知症疾患医療センターと地域包括支援センターの取組についての連携強化

2 在宅療養体制の充実

- ◆未加入事業者へのヒアリングの実施

重点目標

I 日本一の健康長寿県づくり 2 地域で支え合う医療・介護・福祉サービス提供体制の確立とネットワークの強化
 <あったかふれあいセンターの機能強化> <住民主体の地域づくりの推進>

日本一の健康長寿県
 構想高幡地域推進協議会

1 現状 (令和5年度の取組)

1. あったかふれあいセンターの機能強化
 【管内あったかふれあいセンターの状況】(R5.4.1現在)

あったかふれあいセンター	委託先	運営協議会開催予定	サテライト数	
須崎市	まちなかサロン	須崎市社会福祉協議会	2	3
	さんぽ	浦ノ内地区自主組織	2	2
	あわ	集落活動センターあわ	2	0
	かみぶん	上分地区自主組織	2	2
中土佐町	まんまる	中土佐町社会福祉協議会	3~4	0
	寄り家		3~4	2
	ほのぼの大野見		3~4	2
津野町	風のさと	津野町社会福祉協議会	2	1
	星のさと		2	2
四万十町	くぼかわ	(株)アクトワン	1	17
	やまびこ	(社福)さくら福祉事業会	1	11
	十和	(NPO)さわやか四万十	1	4

* 拠点：12箇所

* サテライト：46箇所

* 梶原町は集落活動センターに福祉機能を持たせて対応

2. 住民主体の地域づくりの推進
 【管内市町地域福祉(活動)計画】

市町	R3	R4	R5	R6	R7
須崎市			改定		
中土佐町	改定				
梶原町		改定			
津野町	改定				
四万十町		改定			

◎取組

1. あったかふれあいセンターの機能強化

- ・あったかふれあいセンター拠点ヒアリング(5~6月に12拠点)
- ・あったかふれあいセンターの定例会や運営協議会への出席(定例会10回、運営協議会等10回)
- ・他のあったかふれあいセンターの活動を体験、学ぶための「あったか留学」の実施(10月3名、11月10名)
- ・あったかふれあいセンター、市町を対象に担当者会の開催(3/7予定)

2. 住民主体の地域づくりの推進

- ・地域福祉(活動)計画の改定及び進捗管理のため策定委員会への出席



2 令和5年度の取組成果

1. あったかふれあいセンターの機能強化

- ①運営協議会において活動の現状や取組の共有ができ、住民と協働した活動につながっている
- ②「あったか留学」による学びを自所属の活動に反映できた

2. 住民主体の地域づくりの推進

- ①地域福祉(活動)計画の改定及び計画に沿った活動の見直しや推進ができた

3 取組後の課題

- ◆あったかふれあいセンターの機能強化に向けた活動の評価
- ◆あったかふれあいセンター、市町、住民が地域課題を共有するための活動の見える化
- ◆地域福祉(活動)計画の更なる推進

4 令和6年度の取組

1. あったかふれあいセンターの機能強化

- ①他のあったかふれあいセンターの活動を体験し、自所属の活動に活かせるための「あったか留学」の実施
- ②あったかふれあいセンターと市町が地域課題を共有するための担当者会の開催

2. 住民主体の地域づくりの推進

- ①地域福祉(活動)計画の進捗管理

重点目標

I 日本一の健康長寿県づくり

3 子ども達を守り育てる環境づくり

<妊娠期から子育て期までの切れ目ない包括的な支援体制な支援体制強化>

<発達の気になる子どもの支援体制整備>

日本一の健康長寿県構想
高幡地域推進協議会

1 現状 (令和5年度の取組)

【管内の状況】

※1 出生：1～12月

	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町	管内	県
人口(人) (R4.4.1推計)	19,725	5,728	3,169	5,161	15,027	48,810	677,888
出生数(人) (R4)※1	84	17	10	24	70	205	3,721
子育て世代包括支援センター (母子保健)	H29 設置	R4 設置	H29 設置	R2 設置	R2 設置	5市町	34市町村
子ども家庭総合支援拠点 (児童福祉)	R4 設置	R4 設置	—	R4 設置	R4 設置	4市町	20市町村

【幼児健診の状況(R4年度)】

	須崎市		中土佐町		梶原町		津野町		四万十町	
	1.6歳児	3歳児	1.6歳児	3歳児	1.6歳児	3歳児	1.6歳児	3歳児	1.6歳児	3歳児
回数	6回	6回	4回	3回	3回	3回	6回	6回	6回	6回
受診者数(人)	104	84	16	23	17	23	29	31	84	73
要経過観察 (人)	8	25	3	0	6	5	4	7	7	1
要精密 (人)	4	11	1	3	0	4	0	3	7	6
要治療 (人)	3	7	1	1	0	0	0	0	0	1

◎取組

1 妊娠期から子育て期までの支援体制強化

- 市町における育児リスクの早期発見と予防的支援の仕組みづくり
 - 市町ヒアリング(5月)や管内母子保健担当者連絡会(6/30・10名、2/9・9名)で各市町の「重点取組」や「産後ケア」について情報共有
- こども家庭センターへの移行を見据えた各市町子育て世代包括支援センター(母子保健)と児童福祉部門との連携強化
 - 管内母子保健担当者連絡会(再掲)で「こども家庭センター」について情報共有
 - 須崎市母子保健部門と児童福祉部門へのヒアリング(予定)
- 母子保健に関する事例検討会の開催
 - 新任期保健師の事例提供による事例検討会の開催(須崎市・中土佐町・四万十町:6/26・14名、津野町・梶原町:9/30・11名)

2、発達の気になる子どもの支援体制整備

- 保健師等専門職の要支援児の見立てやフォローに関する研修会の開催
 - 管内医療機関の言語聴覚士を講師に招き、幼児健診の見立てについての研修会を開催(6/30・12名)
 - 乳幼児健診に従事する小児科医師の確保について、管内3市町の情報交換会を開催(須崎市・中土佐町・津野町:9/4・15名)
- 市町と障害福祉サービス事業所との情報共有の支援
 - 管内市町・事業所・医療機関が参加した発達障がい気になる子どもの支援体制整備検討会を開催(11/27・25名)

【こども家庭センター設置予定】

R6年度	津野町
R7年度以降	中土佐町
未定	須崎市 梶原町 四万十町

【管内の障害児福祉サービス】

・全て須崎管内

運営主体	事業所名	児童発達支援	放課後等デイサービス	保育所等訪問
(医療法人)五月会	なちゆら	○ (R4~)	○ (R3~)	○
(株)三業	COMPASS 発達支援センター 須崎	○	○	
(社団法人) チャイルドドライブ	通所支援 ベルテール須崎園		○	

【当所における発達相談会】

※2 見込み

	H30	R元	R2	R3	R4	R5
	回数	10回	10回	10回	10回	10回
利用 人数(人)	35	32	26	32	25	34※2

2 令和5年度の実績

1 妊娠期から子育て期までの支援体制強化

- 管内市町が「重点取組」や「産後ケア」について共有し、自市町での取組に活用
- 管内市町がこども家庭センターの機能・要件について理解し、取組を検討
- 新任期保健師の事例の検討を通じたアセスメント力強化

2 発達の気になる子どもの支援体制整備

- 管内市町保健師が幼児健診の見立てと継続支援についてスキルアップ
- 発達の気になる子どもの支援に関する管内関係機関の相互理解の促進と関係づくり

3 取組後の課題

1、妊娠期から乳幼児期の支援体制強化

- ポピュレーションアプローチによる早期からの虐待リスク予防が必要
- 各市町が自市町でどのようにこども家庭センターを設置していくかの協議が必要

2、発達の気になる子どもの支援体制整備

- 市町により障害児支援体制整備の進捗に差があり、障害児のサービスが不十分
- 乳幼児期から就学にかけての切れ目ない支援が必要

4 令和6年度の実績

1、妊娠期から乳幼児期の支援体制強化

- 乳児期からのポピュレーションアプローチによる虐待リスク予防
- 各市町内での関係者が協働したこども家庭センターへの円滑な移行

2、発達の気になる子どもの支援体制整備

- 障害児のサービス体制整備に向けた協議
- 幼児健診後から就学までの切れ目ない支援体制づくり

重点目標

II 南海トラフ地震対策の推進

<地域ごとの医療救護体制づくりの支援> <保健（公衆衛生）活動の体制強化>
<地域住民と共に取り組む災害時要配慮者対策の推進>

日本一の健康長寿県構想
高幡地域推進協議会

1 現状（令和5年度の取組）

【保健医療調整高幡支部活動拠点】

- 所内：須崎第2総合庁舎内4階災害対策合同事務室（L2相当で2階までが浸水）
- 所外：須崎市役所（H26.3.25協定締結）、四万十町役場（H26.12.24協定締結）

【医療機関等の津波浸水予測（L2想定）】

	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町
救護病院 ※市町指定 (●浸水予測)	高陵病院(●)	なかとさ病院(●)	梶原病院	梶原病院	くぼかわ病院
	土佐市民病院(●)	くぼかわ病院		高陵病院(●)	大西病院
透析医療機関 (●浸水予測)	島津クリニック(●) 須崎医療クリニック(●)	なかとさ病院(●)			くぼかわ病院
薬局数 (浸水予測)	14 (14)	2 (2)	2 (0)	2 (0)	7 (0)

【管内市町の状況（R5.3月末現在）】

項目	須崎市	中土佐町	梶原町	津野町	四万十町	
計画/マニュアル 策定状況	災害医療救護計画改定	R4.3	R元.8	R2.3	H28.11	H26.12
	南海トラフ地震時保健活動マニュアル改訂	R4.3	R5.2	H31.3	H31.3	H31.3
	遺体対応マニュアル	H30.1	H28.3	H30.3	H29.3	H29.3
災害時 要配慮者対策 (R5.3.31現在)	避難行動要支援者数(A)	572	164	48	82	1,903
	同意取得者数(B) (同意取得率B/A)	217 (37.9%)	115 (70.1%)	43 (95.8%)	55 (67.1%)	1,080 (66.6%)
	個別計画策定数(C) (同意者の策定率C/B)	200 (92.2%)	115 (100%)	43 (93.5%)	55 (100%)	1,080 (85.2%)
	福祉避難所 指定(協定)施設数 (マニュアル策定率)	9 (100%)	7 (100%)	4 (100%)	4 (100%)	11 (100%)

- 地域ごとの医療救護体制づくりの支援**
 - ・未策定2町の地域ごとの医療救護行動計画(L2想定)策定作業の進捗管理
 - ・市町や医療機関、DMAT等との大規模地震時医療活動訓練を実施
 - ・須崎災害対策支部・保健医療調整高幡支部・市町災害対策本部・救護病院との合同訓練実施
 - ・幡多地域災害医療救護訓練への参画
- 保健医療調整高幡支部初動体制の見直し**
 - ・支部の初動体制確立のアクションカードの見直し
- 保健（公衆衛生）活動の体制強化**
 - ・須崎市、津野町、四万十町の「南海トラフ地震時保健活動マニュアル」改定に向けた協議への参画
 - ・須崎市、中土佐町、梶原町のGIT研修会への参画
- 災害時要配慮者対策の推進**
 - ・中央西・高幡ブロック人工透析患者災害時支援体制検討会、災害透析情報伝達訓練、透析医療機関臨床工学技士等連絡会の開催
 - ・管内透析医療機関と市町との意見交換会の開催
 - ・須崎市、中土佐町、四万十町には総合防災対策推進須崎地域本部と協働の推進チーム会を開催
 - ・管内担当者会で避難所運営ゲーム(HUG)を実施

2 令和5年度の取組成果

1 地域ごとの医療救護体制づくりの支援

- ・新たな取組として、3病院や市、医療本部と協働で行う勤務医等の搬送や、黒潮町とくぼかわ病院による重症患者（佐賀 地域）の搬送に係る情報伝達訓練実施により連絡方法や手順の確認及び課題を明確化した

2 保健医療調整高幡支部初動体制の見直し

- ・早急な支部立上げのため職員の参集状況等の検証により災害状況別等のアクションカード改正を行った

3 保健（公衆衛生）活動の体制強化

- ・「南海トラフ地震時保健活動マニュアル」の改定作業や実際の災害をイメージしたGIT研修を通じて市町の保健福祉担当者及び防災担当者間で組織体制や通信手段の現状や課題を確認できた

4 災害時要配慮者対策の推進

- ・透析医療機関と支部、四万十町間での情報伝達訓練を初めて実施した
- ・避難行動要支援者個別計画の進捗状況を共有した
- ・避難所運営ゲーム(HUG)を通じて、市町と福祉避難所である施設が災害対応時のイメージを共有できた

3 取組後の課題

1 地域ごとの医療救護体制づくりの支援

- ・地域ごとの医療救護行動計画(L2想定)の策定支援が必要
- ・あらゆる場面を想定した県災害対策支部、市町、医療機関等との継続的な訓練の実施

2 保健医療調整高幡支部初動体制の見直し

- ・早急な初動体制確立のための活動拠点の再検討が必要

3 保健（公衆衛生）活動の体制強化

- ・市町の保健福祉担当部署と防災担当部署の連動した訓練や協議が必要

4 災害時要配慮者対策の推進

- (1)人工透析患者の災害時支援体制の推進
 - ・災害時透析医療情報伝達訓練への市町職員参加やINEとLINE以外の通信手段の確保
- (2)個別避難計画の策定と福祉避難所の実効性の確保
 - ・個別避難計画の進捗管理と訓練が必要
 - ・施設毎の福祉避難所マニュアルの策定が必要

4 令和6年度の取組

1 保健医療調整高幡支部体制の強化

- (1)実践的な医療救護訓練の継続的な実施
- (2)災害医療対策高幡地域会議の開催
- (3)保健活動情報伝達訓練の実施
- (4)保健医療調整高幡支部初動体制の見直し

2 市町ごとの災害時活動体制づくり

- (1)地域ごとの医療救護行動計画(L2想定)未策定の2町への継続支援
- (2)「南海トラフ地震時保健活動マニュアル」の見直し支援
- (3)南海トラフ地震時公衆衛生活動GIT研修会の開催支援

3 災害時要配慮者対策の推進

- (1)人工透析患者の災害時支援体制の推進
 - ・中央西・高幡ブロック災害透析情報伝達訓練を伝達手段を拡大して実施
 - ・管内透析医療機関間、透析医療機関と市町との連携強化のための連絡会や意見交換会の開催
- (2)個別避難計画の策定と福祉避難所の実効性の確保
 - ・総合防災対策推進須崎地域本部と協働の推進チームで進捗管理
 - ・保健福祉担当部署と防災担当部署及び施設との連携に向けた担当者会の開催

